(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2009-201836
(P2009-201836A)
(43)公開日　平成21年9月10日(2009.9.10)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
A61M 5/168	(2006.01)	A61M	5/14	401	4C066
A61B 17/00	(2006.01)	A61B	17/00	320	4C160
A61M 25/02	(2006.01)	A61M	25/02	D	4C167

審査請求 未請求　請求項の数 12　ＯＬ　（全 9 頁）

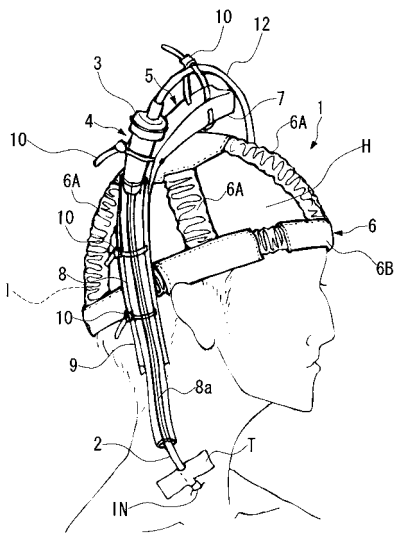
(21)出願番号　特願2008-48846(P2008-48846)
(22)出願日　平成20年2月28日(2008.2.28)

(71)出願人　590002389
静岡県
静岡県静岡市葵区追手町９番６号
(74)代理人　100120396
弁理士　杉浦　秀幸
(72)発明者　松見　しのぶ
静岡県駿東郡長泉町下長窪１００７番地
静岡県立静岡がんセンター内

Ｆターム(参考)　4C066 AA07 BB01 CC01 DD01 FF01 LL16 QQ15
4C160 MM37
4C167 AA33 BB24 BB33 BB36 CC08 HH08 HH20 HH22

(54)【発明の名称】内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具

(57)【要約】
【課題】　固定した点滴用バルブのずれを防止すると共に容易に装着可能な内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具を提供すること。
【解決手段】　先端にフィルター部を有するカテーテル本体２とその基端に取り付けられた点滴用バルブ３とを有した内頸下大静脈フィルターカテーテル４の点滴用バルブ３を固定するバルブ固定部材５と、該バルブ固定部材５が上部に設置され人体の頭部Hに被せて装着可能な帽子部６と、を備えている。
【選択図】　図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
先端にフィルター部を有するカテーテル本体とその基端に取り付けられた点滴用バルブとを有した内頸下大静脈フィルターカテーテルの前記点滴用バルブを固定するバルブ固定部材と、
該バルブ固定部材が上部に設置され人体の頭部に被せて装着可能な帽子部と、を備えていることを特徴とする内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具。
【請求項２】
前記帽子部が、装着状態で前記頭部の後頭骨下部の下側に到達し支持可能な形状とされていることを特徴とする請求項１に記載の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具。
【請求項３】
前記帽子部が、装着状態で前記頭部の後頭骨下部の下側を通る後頭部側バンド部を有していることを特徴とする請求項２に記載の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具。
【請求項４】
前記バルブ固定部材が、前記点滴用バルブの固定位置を調整可能であることを特徴とする請求項１から３のいずれか一項に記載の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具。
【請求項５】
前記バルブ固定部材が、前記点滴用バルブを内側に向けて傾斜状態又は横倒し状態で固定可能な受け皿部を備えていることを特徴とする請求項１から４のいずれか一項に記載の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具。
【請求項６】
前記受け皿部が、ポリエチレンで形成されていることを特徴とする請求項５に記載の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具。
【請求項７】
前記バルブ固定部材が、前記帽子部に対して着脱可能に取り付けられていることを特徴とする請求項１から６のいずれか一項に記載の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具。
【請求項８】
前記帽子部が、頭頂部から放射状に下方に延在する少なくとも３本の縦バンド部と、
これら縦バンド部の下端部に固定され前記頭部の外周に装着される環状の横バンド部と、で構成されていることを特徴とする請求項１から７のいずれか一項に記載の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具。
【請求項９】
前記縦バンド部及び前記横バンド部が、長さ調節可能とされていることを特徴とする請求項８に記載の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具。
【請求項１０】
前記バルブ固定部材が、前記カテーテル本体を挿通可能であると共に下方に延在したガイドチューブを備えていることを特徴とする請求項１から９のいずれか一項に記載の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具。
【請求項１１】
前記ガイドチューブが、柔軟性材料で形成されていると共に、前記カテーテル本体を差し入れ可能なスリットが全長にわたって形成されていることを特徴とする請求項１０に記載の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具。
【請求項１２】
前記帽子部の周囲を少なくとも前記バルブ固定部材の一部と共に覆って隠す用具カバーを備えていることを特徴とする請求項１から１１のいずれか一項に記載の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具。

【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブを人体の頭部に固定する点滴用バルブ固定用具に関する。
【背景技術】
【０００２】
肺血栓塞栓症や深部静脈血栓症の治療において永久留置型、回収可能型又は一時留置型の下大静脈フィルターが用いられている。この下大静脈フィルターは、下大静脈内に固定され、血栓等の塞栓子が肺に流れ行く前に捕捉する器具であり、専用の挿入器具で例えば内頸静脈（首にある静脈）から下大静脈に挿入されて内部に留置されるものである。
【０００３】
下大静脈フィルターのうち、一時留置型の下大静脈フィルター（一時的下大静脈フィルターと称す）は、カテーテルの先端部にフィルター部が設けられていると共に、基端部にヘモスタットバルブと呼ばれる点滴用バルブが取り付けられたものが使用されている。この一時的下大静脈フィルターでは、点滴ボトルや点滴バッグに接続された点滴ラインを点滴用バルブに連結して血液凝固阻止剤（ヘパリン等）等の添加された生理食塩液等を持続点滴することで、フィルター部の血栓形成による詰まり等を防止している。
【０００４】
従来、一時留置型の内頸下大静脈フィルターの場合、頭部において点滴用バルブを外部固定することが必要であり、各現場で独自に工夫されて固定を行っていた。例えば、非特許文献１に記載されているように、内頸静脈にカテーテルを挿入し穿刺部で固定した状態で、カテーテルの基端に設けられた点滴用バルブを頭部にバンドなどを巻いて固定していた。これにより、カテーテルの穿刺部と頭部との２箇所で固定して、顎の運動やフィルター自身の重みでフィルターが引っ張られて移動してしまうことを防いでいる。このような装着状態で、例えば最大二週間の留置が行われる。
【０００５】
【非特許文献１】渡辺慎太郎、「下大静脈フィルター」、Heart View、メジカルビュー社、２００６年６月、Vol.10、No.7、p.93-96
【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００６】
上記従来の技術には、以下の課題が残されている。
すなわち、従来、内頸下大静脈にフィルターカテーテルを留置している状態では、バンドを使って頭部に簡易的に点滴用バルブを固定しているが、単にバンドで固定しているだけのため、不安定であってズレやすく、カテーテルが引っ張られて所定部位に留置したフィルター部が移動してしまうおそれがある等の不都合がある。特に、単にバンドで点滴用バルブを頭部の側部に固定しているので、点滴用バルブが頭部の側部に直立状態となってしまい、点滴用バルブが周囲に当たったり引っ掛かったりするおそれもあり、不安定である。また、バンドを頭部に巻いて点滴用バルブを固定する作業は、作業時間がかかり、患者及び看護側の双方にとって時間的ロス及び精神的な負荷が大きいという不都合もあった。
【０００７】
本発明は、前述の課題に鑑みてなされたもので、固定した点滴用バルブのずれを防止すると共に容易に装着可能な内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具を提供することを目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００８】
本発明は、前記課題を解決するために以下の構成を採用した。すなわち、本発明の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具は、先端にフィルター部を有する

カテーテル本体とその基端に取り付けられた点滴用バルブとを有した内頸下大静脈フィルターカテーテルの前記点滴用バルブを固定するバルブ固定部材と、該バルブ固定部材が上部に設置され人体の頭部に被せて装着可能な帽子部と、を備えていることを特徴とする。

【０００９】

すなわち、この内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具では、点滴用バルブを固定するバルブ固定部材が上部に設置され人体の頭部に被せて装着可能な帽子部を備えているので、点滴用バルブをバルブ固定部材に固定して頭部に帽子部を被せるだけで頭部に点滴用バルブをズレ難くかつ短時間で容易に位置決め固定することができると共に、良好な装着感を得ることができる。

【００１０】

また、本発明の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具は、前記帽子部が、装着状態で前記頭部の後頭骨下部の下側に到達し支持可能な形状とされていることが好ましい。すなわち、この内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具では、帽子部が、装着状態で頭部の後頭骨下部の下側に到達しこの部分を支持可能な形状とされているので、帽子部が後頭部の凸部である後頭骨下部の下側に当接して掛かった状態となることで、帽子部全体が上方にずれ難くなる。これによって、帽子部を頭部に強く締め付ける必要がないと共に、患者が横になった際に多少帽子部に力が加わった場合でも、安定した固定状態を維持することが可能になる。

【００１１】

さらに、本発明の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具は、前記帽子部が、装着状態で前記頭部の後頭骨下部の下側を通る後頭部側バンド部を有していることを特徴とする。すなわち、この内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具では、後頭部側バンド部が後頭骨下部の下側を通るので、患者の頭部形状に合わせて帽子部全体をずらして後頭骨下部の下側に当接させなくても後頭部側バンド部によって後頭骨下部の下側を支持することができる。

【００１２】

また、本発明の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具は、前記バルブ固定部材が、前記点滴用バルブの固定位置を調整可能であることを特徴とする。すなわち、この内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具では、点滴用バルブの固定位置を調整可能なバルブ固定部材を有しているので、穿刺部から露出しているカテーテル本体の長さに合わせて点滴用バルブの位置を調整して固定することができ、カテーテル本体の無駄な撓みなどを防ぐことができる。

【００１３】

また、本発明の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具は、前記バルブ固定部材が、前記点滴用バルブを内側に向けて傾斜状態又は横倒し状態で固定可能な受け皿部を備えていることを特徴とする。すなわち、この内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具では、点滴用バルブが内側に向けて傾斜状態又は横倒し状態で受け皿部上に固定されて頭部からの突出量が抑えられるので、点滴用バルブが周囲に当たったり引っ掛かったりすることを抑制することができる。

【００１４】

また、本発明の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具は、前記バルブ固定部材が、前記帽子部に対して着脱可能に取り付けられていることを特徴とする。すなわち、この内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具では、バルブ固定部材が帽子部に対して着脱可能に取り付けられているので、バルブ固定部材を取り外して帽子部だけを洗濯することができ、衛生面に優れた取り扱いが可能になる。

【００１５】

さらに、本発明の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具は、前記受け皿部が、ポリエチレンで形成されていることを特徴とする。すなわち、この内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具では、受け皿部が柔軟であると共に十分な強度を有するポリエチレンで形成され、若干の可動性を有しているので、例えば患者

が装着状態で睡眠する際にも違和感を低減することができる。

【００１６】

また、本発明の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具は、前記帽子部が、頭頂部から放射状に下方に延在する少なくとも３本の縦バンド部と、これら縦バンド部の下端部に固定され前記頭部の外周に装着される環状の横バンド部と、で構成されていることを特徴とする。すなわち、この内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具では、帽子部が少なくとも３本の縦バンド部及び環状の横バンド部で構成されているので、各バンド部間に広い隙間があり、頭部全体を塞いで覆う場合に比べて高い通気性を有することで頭部のムレ等を防ぐことができる。

【００１７】

さらに、本発明の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具は、前記縦バンド部及び前記横バンド部が、長さ調節可能とされていることを特徴とする。すなわち、この内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具では、各患者の頭部の形状や大きさに合わせて縦バンド部及び横バンド部の長さが調節可能であり、各患者に対応して頭部にフィットし、確実な装着と良好な装着感とが得られる。例えば、縦バンド部及び横バンド部が、弾性力を伴って伸縮可能な素材（ゴム材等）や面ファスナー等により長さ調整可能な構造とされる。

【００１８】

また、本発明の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具は、前記バルブ固定部材が、前記カテーテル本体を挿通可能であると共に下方に延在したガイドチューブを備えていることを特徴とする。すなわち、この内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具では、バルブ固定部材が、カテーテル本体を挿通可能であると共に下方に延在したガイドチューブを備えているので、点滴用バルブ近傍のカテーテル本体をガイドチューブで保護することができると共にカテーテル本体がぶらぶらして周囲に引っ掛かること等を防ぐことができる。

【００１９】

さらに、本発明の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具は、前記ガイドチューブが、柔軟性材料で形成されていると共に、前記カテーテル本体を差し入れ可能なスリットが全長にわたって形成されていることを特徴とする。すなわち、この内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具で、柔軟なガイドチューブにカテーテル本体を差し入れ可能なスリットが形成されているので、点滴用バルブを固定した状態でガイドチューブ内にカテーテル本体を容易に出し入れすることができる。

【００２０】

また、本発明の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具は、前記帽子部の周囲を少なくとも前記バルブ固定部材の一部と共に覆って隠す用具カバーを備えていることを特徴とする。すなわち、この内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具では、用具カバーによって帽子部の周囲を少なくともバルブ固定部材の一部と共に覆って隠すので、装着時に良好な外観性を得ることができ、患者の精神安定に寄与することができる。

【発明の効果】

【００２１】

本発明によれば、以下の効果を奏する。

すなわち、本発明に係る内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具によれば、点滴用バルブを固定するバルブ固定部材と、これが上部に設置され頭部に被せて装着可能な帽子部と、を備えているので、点滴用バルブをバルブ固定部材に固定して頭部に帽子部を被せるだけで点滴用バルブをズレ難くかつ短時間で容易に位置決め固定することができ、さらには良好な装着感を得ることができる。したがって、点滴用バルブの装着ズレによって挿入しているカテーテルが引っ張られて留置したフィルター部が位置ずれしてしまうことを防ぐことができる。また、頭部への点滴用バルブの固定作業が容易になり、患者及び看護側の双方において時間的ロス及び精神的な負荷を低減することができる。

【発明を実施するための最良の形態】
【００２２】
以下、本発明に係る内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具の一実施形態を、図１から図３を参照しながら説明する。
【００２３】
本実施形態の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具１は、図１及び図２に示すように、先端にフィルター部（図示略）を有するカテーテル本体２とその基端に取り付けられた点滴用バルブ３とを有した内頸下大静脈フィルターカテーテル４の点滴用バルブ３を患者の頭部Ｈに固定するための器具である。
この点滴用バルブ固定用具１は、点滴用バルブ３を固定するバルブ固定部材５と、該バルブ固定部材５が上部に設置され人体の頭部Ｈに被せて装着可能な帽子部６と、を備えている。
【００２４】
上記バルブ固定部材５は、点滴用バルブ３を内側に向けて傾斜状態又は横倒し状態で固定可能な点滴用バルブ３より若干長く延在した受け皿部７と、カテーテル本体２を挿通可能であると共に下方に延在したガイドチューブ８と、受け皿部７の下端部には、上記ガイドチューブ８に沿って延在する略半割円筒状のチューブ支持部９と、を備えている。
また、バルブ固定部材５は、受け皿部７の裏面と帽子部６の頭頂部とにそれぞれ貼られた面ファスナー（図示略）により、帽子部６の頭頂部に着脱可能に固定され、点滴用バルブ３の固定位置を一定の範囲で調整可能とされている。
【００２５】
上記受け皿部７及びチューブ支持部９は、ポリエチレンで形成されている。
また、受け皿部７及びチューブ支持部９には、それぞれ点滴用バルブ３及びガイドチューブ８の固定用バンド１０が複数取り付けられている。すなわち、受け皿部７上に点滴用バルブ３を設置した状態で、点滴用バルブ３を固定用バンド１０で固定すると共に、チューブ支持部９にガイドチューブ８を沿わせた状態でガイドチューブ８を固定用バンド１０で固定する。
【００２６】
上記ガイドチューブ８は、柔軟性のある樹脂材料で形成され、その全長にわたってカテーテル本体２を差し入れ可能な切れ目としてスリット８ａが形成されている。
上記帽子部６は、頭頂部から放射状に四方かつ下方に延在する４本の縦バンド部６Ａと、これら縦バンド部６Ａの下端部に固定され頭部Ｈの外周に装着される環状の横バンド部６Ｂと、で構成されたヘッドギアである。
【００２７】
なお、受け皿部７は、縦バンド部６Ａの頂部に着脱可能に取り付けられている。また、チューブ支持部９は、装着時に耳のすぐ後ろ付近を通るように横バンド部６Ｂに面ファスナー（図示略）等で着脱可能に取り付けられている。
【００２８】
上記縦バンド部６Ａ及び横バンド部６Ｂは、装着時に要求される強度と柔らかさとが得られる素材としてヘリンボーン生地で形成されていると共に、ゴム材を内蔵して伸縮可能とされている。すなわち、帽子部６を頭部Ｈに装着した場合、縦バンド部６Ａ及び横バンド部６Ｂの収縮によって頭部Ｈの形状に合わせて縦バンド部６Ａ及び横バンド部６Ｂがフィットし、ずれ難くなっている。
また、上記帽子部６は、装着状態で頭部Ｈの後頭骨下部Ｉの下側に到達し支持可能な形状とされている。すなわち、縦バンド部６Ａ及び横バンド部６Ｂが伸びて後頭骨下部Ｉの下側に横バンド部６Ｂの後ろ側が通るようになっている。
【００２９】
なお、縦バンド部６Ａ及び横バンド部６Ｂに、面ファスナー等を用いて長さ調整可能なアジャストベルト等の調整機構を設けても構わない。これにより、頭部側点から頭頂点までの距離や頭部Ｈの外周径に合わせて縦バンド部６Ａ及び横バンド部６Ｂの長さ調整が可

能である。また、ゴム材を用いて弾性力をもって伸縮可能な縦バンド部６Ａ及び横バンド部６Ｂが好ましいが、ゴム材を用いず面ファスナー等の調整機構だけで長さ調整可能な縦バンド部６Ａ及び横バンド部６Ｂとしても構わない。

【００３０】

また、横バンド部６Ｂの下部に、装着状態で後頭骨下部Ｉの下側に沿って後頭部側を支持する伸縮可能な後頭部側バンド部を設けても構わない。この場合、後頭部側バンド部が後頭骨下部Ｉの下側を通るので、患者の頭部形状に合わせて帽子部６全体をずらして後頭骨下部Ｉの下側に当接させなくても後頭部側バンド部によって後頭骨下部Ｉの下側を支持することができる。

【００３１】

さらに、本実施形態の点滴用バルブ固定用具１は、図３に示すように、帽子部６の周囲を少なくともバルブ固定部材５の一部と共に覆って隠す用具カバー１１を備えている。この用具カバー１１は、幅広である程度の伸縮性を有する環状布製であり、外観性を考慮して種々の色や模様のあるものを採用可能である。

【００３２】

本実施形態の点滴用バルブ固定用具１を用いて内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ３を頭部Ｈに固定するには、まず、カテーテル本体２を首の穿刺部ＩＮから内頸静脈に挿入した状態でカテーテル本体２を穿刺部ＩＮにおいて固定テープＴで固定する。次に、帽子部６を頭部Ｈに被せると共に、チューブ支持部９が耳のすぐ後ろ付近を通るように帽子部６の位置を調整する。

【００３３】

次に、点滴用バルブ３を受け皿部７上に設置して頭部Ｈの動き等を考慮した位置に固定用バンド１０で固定する。さらに、カテーテル本体２をスリット８ａからガイドチューブ８に差し入れ、このガイドチューブ８ごと固定用バンド１０でチューブ支持部９に固定する。なお、点滴用バルブ３には、点滴ライン１２が接続される。また、患者の希望に応じて、用具カバー１１で帽子部６の周囲をバルブ固定部材５の一部と共に覆っておく。

【００３４】

このように本実施形態の点滴用バルブ固定用具１では、点滴用バルブ３を固定するバルブ固定部材５が上部に設置され人体の頭部Ｈに被せて装着可能な帽子部６を備えているので、点滴用バルブ３をバルブ固定部材５に固定して頭部Ｈに帽子部６を被せるだけで頭部Ｈに点滴用バルブ３をズレ難くかつ短時間で容易に位置決め固定することができ、さらには良好な装着感を得ることができる。

【００３５】

また、帽子部６が、装着状態で頭部Ｈの後頭骨下部Ｉの下側に到達しこの部分を支持可能な形状とされているので、帽子部６が後頭部の凸部である後頭骨下部Ｉの下側に当接して掛かった状態となることで、帽子部６全体が上方にずれ難くなる。これによって、帽子部６を頭部Ｈに強く締め付ける必要がないと共に、患者が横になった際に多少帽子部６に力が加わった場合でも、安定した固定状態を維持することが可能になる。

【００３６】

また、点滴用バルブ３の固定位置を調整可能なバルブ固定部材５を有しているので、穿刺部ＩＮから露出しているカテーテル本体２の長さに合わせて点滴用バルブ３の位置を調整して固定することができ、カテーテル本体２の無駄な撓みなどを防ぐことができる。さらに、バルブ固定部材５は、点滴用バルブ３が内側に向けて傾斜状態又は横倒し状態で受け皿部７上に固定されて頭部Ｈからの突出量が抑えられるので、点滴用バルブ３が周囲に当たったり引っ掛かったりすることを抑制することができる。

【００３７】

また、バルブ固定部材５が帽子部６に対して着脱可能に取り付けられているので、バルブ固定部材５を取り外して帽子部６だけを洗濯することができ、衛生面に優れた取り扱いが可能になる。

また、受け皿部７が柔軟であると共に十分な強度を有するポリエチレンで形成され、若

干の可動性を有しているので、例えば患者が装着状態で睡眠する際にも違和感を低減することができる。

【００３８】

また、帽子部６が縦バンド部６Ａ及び環状の横バンド部６Ｂで構成されているので、各バンド部間に広い隙間があり、頭部Ｈ全体を塞いで覆う場合に比べて高い通気性を有することで頭部Ｈのムレ等を防ぐことができる。

さらに、各患者の頭部Ｈの形状や大きさに合わせて縦バンド部６Ａ及び横バンド部６Ｂが伸縮自在であり、各患者に対応して頭部Ｈにフィットし、確実な装着と良好な装着感とが得られる。

【００３９】

また、バルブ固定部材５が、カテーテル本体２を挿通可能であると共に下方に延在したガイドチューブ８を備えているので、点滴用バルブ３近傍のカテーテル本体２をガイドチューブ８で保護することができると共にカテーテル本体２がぶらぶらして周囲に引っ掛かること等を防ぐことができる。さらに、柔軟なガイドチューブ８にカテーテル本体２を差し入れ可能なスリット８ａが形成されているので、点滴用バルブ３を固定した状態でガイドチューブ８内にカテーテル本体２を容易に出し入れすることができる。

【００４０】

また、用具カバー１１によって帽子部６の周囲を少なくともバルブ固定部材５の一部と共に覆って隠すので、装着時に良好な外観性を得ることができ、患者の精神安定に寄与することができる。特に、女性が使用する場合など、装着時の外観的特異性を和らげる効果を得ることができる。

【００４１】

なお、本発明の技術範囲は上記実施形態に限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲において種々の変更を加えることが可能である。

例えば、上記実施形態は、帽子部６が４本の縦バンド部６Ａを有しているが、少なくとも３本の縦バンド部６Ａがあれば良い。

また、点滴用バルブ３と受け皿部７との隙間を埋めるために、受け皿部７上にスポンジ等のクッション材を取り付けておいても構わない。

【図面の簡単な説明】

【００４２】

【図１】本発明に係る内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具の一実施形態において、点滴用バルブ固定用具を装着した状態を示す側面図である。

【図２】本実施形態において、点滴用バルブ固定用具を装着した状態を示す正面図である。

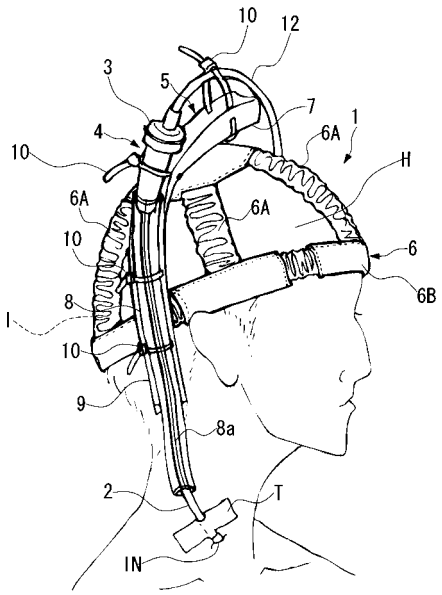
【図３】本実施形態において、点滴用バルブ固定用具を装着した状態で補助具用カバーを被った状態を示す側面図である。

【符号の説明】

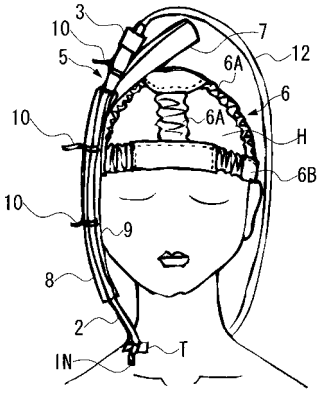
【００４３】

１…点滴用バルブ固定用具、２…カテーテル本体、３…点滴用バルブ、４…内頸下大静脈フィルターカテーテル、５…バルブ固定部材、６…帽子部、６Ａ…縦バンド部、６Ｂ…横バンド部、７…受け皿部、８…ガイドチューブ、８ａ…スリット、１１…用具カバー、Ｈ…頭部、Ｉ…後頭骨下部

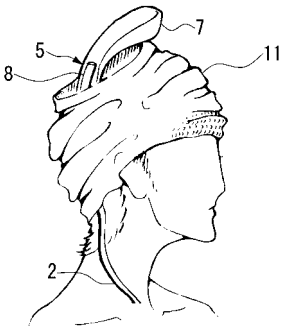
【図１】


10
12
3
5
7
1
4
6A
10
H
6A
6A
10
6
6B
8
I
10
9
8a
2
T
IN

【図２】


3
10
7
5
12
6A
6
6A
10
H
6B
10
9
8
2
T
IN

【図３】


7
5
11
8
2